

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年8月21日

【評価実施概要】

事業所番号	4073600423
法人名	医療法人社団 聖恵会
事業所名	グループホーム 安居
所在地 (電話番号)	福岡県古賀市鹿部485番地 - 1 (電話) 092 - 942 - 6363

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋2 - 2 - 51		
訪問調査日	平成20年8月8日	評価確定日	平成20年9月8日

【情報提供票より】(20年 7月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 2月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	16人, 非常勤 2人, 常勤換算 16.2人

(2) 建物概要

建物形態	併設(単独)	新築 / 改築
建物構造	鉄骨造平屋建 造り	
	1階建ての	1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(50,000円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要(7月28日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	5名	要介護4	3名		
要介護5	4名	要支援2	0名		
年齢	平均 88.7歳	最低	75歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福岡和白病院、宗像水光会総合病院、福岡輝栄会病院、福岡聖恵病院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

病院の敷地内に作られたグループホームであるが、多くの緑に囲まれ、自然の中にひっそりと建っているかのような錯覚に陥る。庭も広々と取られ、季節の花や野菜が植えられており、利用者が水を撒いたり、手入れをしながら身近に季節を感じる事が出来る環境である。ホーム内も随所に木や畳のぬくもりを感じることができる造りとなっており、リビングに集った利用者の話し声や笑い声が響き渡り、より温かい雰囲気が伝わってくる。ハード面・ソフト面共に、温かみが溢れるホームである。利用者の家族や地域の人達との連携も取れており、みんなで利用者の日々の暮らしを支えている様子を伺うことが出来た。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価での改善項目については、管理者が改善シートを作成し、改善に向けての取り組みを行っている。ただ、改善シートに目を通して一部の職員だけであったので、今後は全職員で改善に向けての話し合いを行いながら、共通の認識を持って対応していくことが望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員がそれぞれ自己評価したものを、管理者がまとめ作成したのだが、まとめたものを再度職員と共有するところまでは行っていない(外部評価の結果がでてから話し合いを行う予定であった)。これまでの業務を自ら振り返りながら、全職員で自己評価を行うことの意義を認識して頂きたい。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>区長や市の職員、地域包括支援センターの職員、利用者の家族等が出席して、2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの取り組みや行事等を報告したり、逆に地域の情報を教えてもらったり、双方の情報交換の場となっている。運営推進会議を行うことにより、地域との連携がより密着になった。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法 運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>利用者の家族間で、自然波及的に集まる場面が出来つつあり、その中でホームに対する意見を出し合ったり、意見交換等の話し合いがなされている。その内容を管理者宛に手紙にして渡してもらっており、ホームの運営について反映させることが出来ている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の老人クラブの集まりに参加したり、地域の園児が遊びに来たり、地域の方をホームの行事に呼んだり、地域の人達との交流の場は多い。またボランティアや地域の中学生の体験学習等の受け入れも、積極的に行っている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	地域の中に受け入れられるホームになりたいという思いで職員全員で意見を出し合い、検討を行い地域密着型としての理念を作り上げた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼の時に全員で唱和することにより、理念に対する意識付けが深まってきている。また勉強会でもその人らしい暮らしは何かと話を話し合いながら理念の共有、実践に努めている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人クラブの集まりに参加したり、地域の方をホームの行事に呼んだり、地域の人たちとの交流の場は多い。またボランティアや中学生の体験学習等の受け入れも積極的に行っている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	まず職員がそれぞれ自己評価表に記入したものを集めて、それらの内容をまとめて管理者が作成した。昨年の外部評価においての改善点についても、改善シートを作成した上で改善に向けて取り組みを行った。ただし自己評価をまとめたものを、職員と共有するところまでは行っていなかった(外部評価の結果がでてから話し合いを行う予定であった)。	○	これまでの業務を振り返る場として、職員全員が共通の認識を持って自己評価を実施していくことが求められる。また、改善シートについても、一部の職員だけではなく、全職員で話し合いを行いながら作成し、全員で改善に向けて取り組んでいくことが望まれる。
		運営推進会議を活かした取り組み	区長や市の職員、地域包括支援センターの職員、利		

グループホーム 安居

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長や市の職員、地域包括支援センターの職員、利用者家族等が出席して、2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの取り組みや行事等を報告したり逆に地域の情報を教えてもらう等、双方の情報交換の場となっている。		今のところ、地域からの出席者が区長だけである。今後、民生委員や地域住民等にも参加してもらうことにより、さらに多くの意見を出してもらったり、地域の人々にホームのことを深く理解してもらえないだろうか。

グループホーム 安居

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の窓口パンフレットを持参したり何かあれば相談に行く等、市の窓口には頻りに足を運んでおり、担当者との連携は取れている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	前年の評価で改善項目であったが、その後、研修の年間計画の中にも組み込み、2ヶ月に1回は学ぶ機会を持つようしている。また、管理者が外部研修で学んできたことを、職員にも伝達講習するように努めている。		
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事の時の写真を使って「安居だより」を作成したり、連絡ノートを活用して、利用者の日々の様子を報告している。また何かあれば、その都度電話や面会時に話をしている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族間で、自然波及的に集まる場面が出来つつあり、その中でホームに対する意見を出し合ったり、意見交換等の話し合いがなされている。その内容を管理者宛に手紙にして渡してもらっており、ホームの運営について反映させることが出来ている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	極力異動は行わないようしている。退職等により職員が入れ替わる時には、必ず1ヶ月程度引継ぎの期間を設けて、利用者のダメージを最小限に留めることができるよう配慮している。		

グループホーム 安居

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては、その人本人の資質やグループホームに向いているかどうかというところを重視しており、年齢や性別、資格等で採用から排除することはない。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>入職時、母体病院にてオリエンテーションを受講する際に、人権教育について学ぶ機会を持っている。また、管理者が外部研修で学んできたことを、職員にも伝達講習するように努めている。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>今のところ、職員の段階に向けてとい計画は難しいが、グループホームにとって大事な部分に焦点を当て、教育計画を作成している。</p>		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県のグループホーム協議会に加入しており、勉強会等に参加するようしたり、他のホームと、お互い見学しあおうかとの話を進めているところである。しかし近隣のグループホームとの連携は、今のところあまりない状況である。</p>	○	<p>グループホーム協議会に参加することにより、他のホームとの連携が徐々にとれつつある状況のようなので、今後はさらに近隣のグループホームとの交流も深め、事業者同士協働しながら、質の向上に取り組んでいくことが望まれる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>母体の病院から移ってくる方や併設のショートステイを利用したことがある方が多く、場の雰囲気に馴染んでいることが多いが、在宅から入居になる場合は、事前に家族と一緒にホームを見学に来てもらって、本人に納得してもらった上で入居してもらっている。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>本人本位ということをし、何にでも手を出すのではなく、出来ることはやってもらったり、逆に教えてもらったりしながら、共に支えあう関係を構築している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>担当制をとっているため、それぞれの担当が利用者本人がどのようにしたいのか、どのような思いを持っているのか等を探りながら、アプローチを行っている。毎日のコミュニケーションの中で、大分把握は出来ている状況である。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当制をとっているため、それぞれの担当がケアプランを作成し、計画作成担当者が最終的に目を通している。家族の意見についても事前に電話や面会時に聞いて、それらを反映させたケアプランを作成している。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回、モニタリングを行った上で見直しを行い、新たな計画を作成している。状態に変化が見られた場合には、その都度見直しを行うようにしている。</p>	○	<p>サービス担当者会議が、介護計画作成後に行われている。事前にも家族からの意見を聞いている状況なので、それを文書に残して置く必要があるのではないだろうか。また、長期目標と短期目標の期間の設定が同じ期間となっている。それぞれの意味を再検討し、意義のある介護計画を作成していくことが求められる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別ケアに力を入れているところであり 外食や買い物等、本人のその時々々の要望に応じ 臨機応変に対応するようにしている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状況に応じて、元々のかかりつけ医への受診介助をすることもあるが、ほとんどの利用者がホームの母体病院の受診を希望している。いずれも利用者や家族の意見を尊重した上で支援を行っている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	段階に応じて本人や家族、かかりつけ医と話し合いながら、対応策を検討しているが、今のところホームでの看取りは行ったことはなく、病院で対応してもらうことがほとんどである。本人や家族にも、入居時にその旨説明しており、同意の文書ももらっている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する職員の言葉かけや対応は、ゆっくりと穏やかに行われており、プライバシーを損ねるような場面は見受けられない。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせて、決して無理強いはいしないように対応している。起床時間や就寝時間、食事の時間等もなるべくそれぞれの希望に沿うようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれが出来る範囲で関わりを持ってもらうようにしている。利用者と職員が同じテーブルで同じ食事を摂りながら、ゆったりとした食事の時間を楽しんでいた。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば毎日でも入浴可能である。時間帯は一応決めてはいるが、利用者の状況や希望に合わせて臨機応変に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が出来ることが、いつの間にかそれぞれの役割となっており、掃除や庭の水遣い、金魚のえさやり等、職員が誘導しなくても、それぞれが自然と行っている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	それぞれの希望を聞きながら、散歩や買物等に出掛けている。また時には外食やドライブにも出掛けることもあり、積極的に戸外にでる機会を持っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の中が広く、構造上死角も多いため、利用者が玄関から出ていこうとする時に目が届かない時がある。またホームの前には国道が通っており、交通量が多く、危険性が高い。そのため今のところ鍵を掛けざるを得ない状況である。利用者の家族も鍵をかけることを望んでいる。		鍵をかけないことによるリスクの方が高いことは理解できるが、利用者の自由に出入りできないことの心理的な不安や閉塞感、家族や地域の人々にもたらす印象のデメリットを認識し、やはり自由に出入りできるようにしておくことが理想だと考える。今後も検討、試行を重ね、なるべく理想に近づけるようにしてはいかだろうか。
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、母体病院と合同で避難訓練を行っている。また、ホームのみでも、夜間を想定した訓練も行い、いざという時に備えている。またホームの隣に病院があるため、万が一の際は協力も得られる状態になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体の病院の管理栄養士が献立を作成しているため、栄養のバランスは取れている。また、食事や水分の摂取量もチェック表に記載するようしており、それぞれの状態に応じて支援している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには花を飾ったり、タンスやテーブル、装飾品も一般の家庭にあるようなもので揃えられており、心地よく過ごせる空間作りがなされている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、好みのものや使い慣れた家具が持ち込まれており、居心地よく過ごせる空間づくりがなされている。		